

【92】 三国山（その2）

先週に引き続き三国山の例を紹介します。

北海道の面積は8万平方キロメートルと広いので、地理的にも、行政的にも内地の都道府県程度の広さの地域に区分し、それぞれの地域に江戸期以来の伝統的な名称を付しています。石狩、空知、日高、釧路、宗谷……という具合です。古くは「〇〇支庁」と行政上の区分と地理的名称とを兼ねた云い方をしていたのですが、現在では、「渡島総合振興局」とか「留萌振興局」と北海道庁の行政機関であることが強調され、網走支庁が「オホーツク総合振興局」になるなど、地名的性格が薄くなりました。

閑話休題。旧支庁名を一種の国名と見做すと北海道にも三国山があります。それは、北海道の中央に位置する石狩山地で、大雪山の東にある標高1,541mの山です。この三国山の西側が「上川」で石狩川流域、東側が「網走」で常呂川（ところがわ）流域、南側は「十勝」で十勝川流域、それらの流域から河川はそれぞれ太平洋、オホーツク海、太平洋に流れて行くというスケールの大きいものです。

私の持っている地図帳には、この三国山の表記の脇に“北海道大分水点”と赤字で添書があります。

（参考）スーパーマップル北海道地図帳、昭文社、 2022. 7